教育学部 学校教育教員養成課程 令和3年度「大学入門ゼミ」実施報告書

松下 幸司（教育学部附属教職支援開発センター）

（1）実施の概要

令和3年度の大学入門ゼミは、例年通り7クラス編成（1クラスあたり学生数：24名×4クラス+23名×3 クラス）で実施した。教育学部学校教育教員養成課程においては、1～7組の授業教室が前期「大学入門ゼミ」のみならず、後期実施の「教職概論」(学部実地教育科目)までを通して“ホームルーム教室”となるよう、講義室調整を行った。併せて、担任教員の学生指導のクラス間連携を図るとともに、学生にも初年次教育の一体感・一貫性を感じさせるため、ホームルーム教室となる講義室を、中庭を取り囲む4・5号館2階に、クラス番号順に並ぶよう集中配置して実施することとした(1組 421・2組 422・3組 423・4組 526・5組 525・6組 523・7組 522)。

本学部学校教育教員養成課程における令和3年度前期「大学入門ゼミ」の授業計画については、4月12日実施の初回授業において、オリエンテーションとして学生に周知を行った。その際、事前に moodle「大学入門ゼミ」コースページに授業計画の pdf ファイルを掲載しておき、moodle へのアクセス方法を周知し、学生一人ひとりがアクセスすることによって、1年次学生全員の moodle 閲覧スキルを確認した。これは、その後の新型コロナウイルス感染症への対応として、授業をオンライン配信しなければならなくなった場合を想定した、1年次生に対する早急な moodle 活用スキルの定着をめざして実施したものである。（moodle だけでなく zoom へのアクセス方法についても、初回授業において周知・指導・確認を行った。）

初回授業においては、1年次生全員が415講義室内で一斉にアクセスを行った。一斉アクセスを行ったことにより、Web サイトからの情報ダウンロードの遅延が確認された。組ごとに Web サイトへのアクセスタイミングをずらしてアクセスさせることで、多少、状況の改善がみられたが、415講義室から1年生全員が講義中、Web サイトに一斉アクセスすることができなかった。これは「415講義室において、一斉授業で Web アクセスが利用できない」ことを意味する状況である。初回授業終了後、情報メディアセンターなど関係する担当の方と連携し、初回授業時の回線状況の確認や、第2回授業時に 415 講義室にご足労いただきネットワーク状況を確認いただいた上で、ネットワーク環境や設定を調整いただくことによって、第3回授業からも、学生によってデータのダウンロード等に遅延が確認される状況ではあったが、アクセスタイミングをずらす程度の指導により、415講義室においても、授業中、概ね全員一斉に無線 wifi・moodle を含めた Web サイトが活用できるようになった。講義室の wifi アクセス状況については、関係担当者と連携をとりながら迅速な対応を行い、授業において円滑に活用できるネット環境の常時整備・保持が重要であることを、強く感じる出来事であった。

全学共通コンテンツについては、共通コンテンツに関連するミニ演習を円滑に実施・指導できるよう、昨年度までは、1年生全員を2クラスに分けて実施する方法として授業計画を立てていた。2クラスを指導担当する教員は、1年生担任教員が1人1回、授業を分担担当することとしている（1つの共通コンテンツを2名の教員が担当することとなる）。また、1つの共通コンテンツを担当する2名の教員のうち、1名は前年度担当した教員が2年目担当を行い、残る1名は、本年度新たに「大学

入門ゼミ」を担当する教員が担当指導を行う体制をとっている。これにより、2年目担当教員が初めて担当する教員に、共通コンテンツの内容や指導方法を伝達・共有（＝伝承）することができる。2021年度はさらに実施体制に工夫を加え、415講義室で一斉授業を行い、2名教員がティーム・ティーチングで指導にあたることとした。すなわち、2年目の教員が主担当として全体指導にあたり、本年度初めて「大学入門ゼミ」を担当する教員が副担当として、学生の個別指導にあたる方法である。これにより、2名の教員が別々に授業を実施する方法に比べ、1人ひとりの学生へのより細やかな対応・指導が可能となった。併せて、本年度初めて「大学入門ゼミ」を担当する教員が副担当として授業に関わることによって、「授業に参与しながら、共通コンテンツの内容・指導方法を理解する」徒弟的な伝達・共有（＝伝承）が可能になることが期待される。

5月のゴールデンウィーク明けから6月初旬にかけて、新型コロナウイルス感染症への対応のため、オンライン授業配信を余儀なくされた。これにより、共通コンテンツのうちの半分（情報整理の方法・プレゼンテーションの方法）については、オンラインでの授業実施となった。ゴールデンウィーク明けからオンライン授業に切り替わったが、初回授業において moodle の使い方などを指導・確認していたこともあり、1年次学生ではあるが、昨年度(2020 年度)ほどの大きな問題の申し出なく、オンライン授業を実施することができた。

また、第8回（6/14）以降、前期後半の授業においては、「学校園を『探究』しよう」と銘打ち、受講生一人ひとりが、幼稚園・小学校・中学校に関する探究課題を設定し、文献調査・インターネット上の情報リサーチなどをふまえ、報告書にまとめ、プレゼン発表を行うという一連の学習活動を行った。この探究活動は、既習の共通コンテンツ①～④で得た知識・スキルを活用して取り組む学修機会として位置づけ、共通コンテンツを通して得た知識・スキルを「自分のものとして使える知識・スキル」に高めることを目指して実施した。（これらの探究活動については、2020年度、大学入門ゼミFD としてオンライン授業公開を行った授業をベースに、さらに改善し実施したものである。）

教育学部においては、moodle・zoom 等とは異なる「授業支援システム」を、学生が授業において活用しながら受講することができるよう、今年度より整備をすすめている。これは、GIGA スクール構想により全国の国立・公立・私立の小・中・高等学校に整備されているタブレット端末とともに、授業において活用するために整備されている「授業支援システム」と同様の環境である。教師を目指す上で、現在全国の学校に整備されている授業支援システムを1・2年次のうちに「自らが活用して学ぶ」経験を通して、3・4年次で「授業で活用して指導することができる教員」としてのスキルを高めることを、教員養成における指導に位置付けることが重要だと考える。本年度は、この授業支援システムを、共通コンテンツ①～④で得た知識・スキルを活用して取り組む学習活動「学校園を『探究』しよう」において活用することとした。これにより、オンライン授業として対応・指導せざるを得ない場合においても、授業を担当する教員と学生との情報共有だけでなく、受講する学生相互の情報共有が容易になった。オンライン授業においても、学生が協働的な学習活動に取り組み易くなることが期待される。教員アンケートには、共通コンテンツを教える際の工夫について、「学生同士で発表内容を共有できるようにクラウド上でデータ共有したり，協働学習支援アプリを使用したりしました。」との記載もある。今後も引き続き、大学授業における授業支援システムの活用可能性を模索していきたい。

以上のように、本年度も共通コンテンツを含め、「大学入門ゼミ」の一部の授業をオンライン配信により実施せざるを得なかった。また新型コロナウイルス感染症への対応のため、授業計画の変更を重ねて実施することとなった。本年度、実際に行った授業は、表 1 のとおりである。

表1 教育学部学校教育教員養成課程「大学入門ゼミ」 授業計画（実施分）

回	実施月日（曜日）	授業内容の概要
1	4月12日（月）	(全 体) オリエンテーション（授業説明・moodle の使い方 など） 領域振り分け 当初希望調査+幼・中参観 学校種希望調査 415 (クラス別) 入学後約 1 週間の大学生活について 415 クラス席で
2	4月19日（月）	[共通コンテンツ①] 日本語技法 1～7組(全員) 415 講義室
3	4月26日（月）	[共通コンテンツ②] レポートの書き方 1～7組(全員)415 講義室
休講	5月10日（月）	（→後期「教職概論(イ)」にて、学校園訪問・小豆島一日研修等として代替実施予定）
4	5月17日（月）	[共通コンテンツ③] 情報整理の方法1～7組(全員)遠隔配信
5	5月24日（月）	[共通コンテンツ④] プレゼンテーションの方法 1～7組(全員)遠隔配信
6	5月31日（月）	プレゼン de 「入学後2か月」を相互交流しよう（前半）
7	6月07日（月）	プレゼン de 「入学後2か月」を相互交流しよう（前半）
8	6月14日（月）	小中コース 領域紹介Ⅰ 「学校園を探究しよう」 ①探究テーマを考えよう
9	6月 21 日（月）	小中コース 領域紹介Ⅱ 「学校園を探究しよう」 ②探究テーマを決めよう
10	6月28日（月）	小中コース 領域紹介Ⅲ） 「学校園を探究しよう」 ③「探究なるほど!報告」って?(1)発表台本について 『二十四の瞳』映画鑑賞（冒頭30分間）
11	7月05日（月）	「学校園を探究しよう」 ④「探究なるほど!報告」って?(2)プレゼンについて （組別）「学校園を探究しよう」進捗状況確認
12	7月12日（月）	『二十四の瞳』映画鑑賞（終末20分間程度） 『二十四の瞳』から考える「教育とは?」（国語領域教員による）
13 休講	7月17日（土） or18日（日）	（→後期「教職概論(イ)」にて、学校園訪問・小豆島一日研修等として代替実施予定）
14	7 月19日（月）	「探究なるほど!報告会」をしよう（前半） （コース・領域振り分け説明等）
15	7 月26日（月）	「探究なるほど!報告会」をしよう（後半） 授業評価他
	8 月 2 日（月）	「探究なるほど!報告」電子ファイル提出締切

（2）学生アンケート（共通コンテンツアンケート）結果についての所見・今後の課題

平成 26 年度の学生アンケートに、レポートの書き方をもっと早く実施してもらいたいとの希望が多かったことから、平成 27 年度以降1か月ほど前倒しし、大学入門ゼミ前半において授業を実施して

いる。そのレポートの書き方に関して、学生アンケートには「高校までにきちんとしたレポートを提出することがなくどうしたらいいのか分からなかったが、詳しく学ぶことができ良かった。レポートを書くスキルは大学生活 4 年間でずっと必要になってくるものなので受けれて良かった。（原文ママ）」「参考文献の掲載方法やレポートの際の一人称など、知らなかったことがたくさんあってこれからの大学生活で役立てられると思った。」「大学生になってレポート書く機会が増えて書き方に苦労していたので学ぶことで基本的な書き方を知ることができた。」「他の授業でレポート課題が出た際に書き方が分かっていたためスムーズに書くことができた。」など、学生の必要感に応じたタイミングと内容による授業を提供できたものととらえられる。また、「先生から説明を受けて、書き方がまとめてある紙をもらったので、授業でレポート課題が出た時にそれと照らし合わせながら取り組むことができた 。レポート課題が出た時、どういうふうに書けばいいか迷った時にはいつもその紙を見て取り組んでいる ので、すごく役に立っています。」との回答に見られるように、共通コンテンツにおける配布資料を、ポイントを押さえた簡潔なものとなるよう工夫することによって、その後の他科目の授業で課された課題においても、学生が共通コンテンツの内容を参照しながら課題に取り組もうとする「大学での学びにおける基礎資料（手引き）」となることを示している。配布資料への配慮・工夫についても、引き続き検討したい。

加えて、「レポートの書き方とプレゼンテーションの方法については今までに学習しておらず、大学生活を通して必要なスキルであるため、基礎的なことを学ぶことができ、多くの機会に活かすことができる。」「プレゼンテーションの方法を学んでよかったなと思った点は、話す速さに気を付けることができるようになったことである。今まで、発表で話す速さなど指摘されたことがなかったため、指摘されて初めて気が付いたからだ。プレゼンテーション能力は、自分が実際に教師になって授業をするときにも役立つと思った。」など、高校生までとは異なる“大学生としての学び方”のスキルアップの基礎を、4回の共通コンテンツの授業を通して培うことができたとともに、自分でできる達成感を感じ、将来に繋がるスキルとしての価値づけを促すことができたと思われる。

加えて学生からは、「すべてのスキル教育が社会に出て使うもので、学べてよかった。とくにプレゼンテーションの方法は練習をしたりして慣れていく必要があるけど、クラスで何回かその機会がありよかった。」など、後半に実施した、学校園に関する探究活動においても、共通コンテンツで学んだことを活かして取り組むことができたこと、併せて、遠隔授業においても、プレゼンがうまく実施できたことを報告するコメントも寄せられた。共通コンテンツを授業内で取り扱うだけでなく、それらの授業を通して得た知識・スキルを活用する機会をいかに設定するか、また遠隔授業においても、対面授業に近い授業参加感・達成感を受講する学生に味わわせることを意識した授業方法の工夫についても、引き続き検討したい。

なお、ある学生からは、「一つの教室で全員がパソコンを開くと確実に動作が遅くなって無駄な時間が発生してしまうのでどうにかしてほしいです。」「全員が一斉に同じ講義室から同じサイトにアクセスすると、エラーで開けない人が出てくる。…(中略)…全員が平等に学べるように改善してほしい。」といった複数のコメントが寄せられた。上述したように、当該状況が発生したのは初回授業時程度であり、その後、関係担当者の支援もあり回線状況は改善されたものの、15 回のうちたった1回の「授業で wifi・web 環境がスムーズに使えない」ことが、強烈なイメージを持って学生の中に

残っていることを示唆している。「授業で wifi・web 環境を全員一斉に・滞りなくスムーズに活用することができる」環境整備を切望する。

併せて担当教員としては、今後とも引き続き、大学生として必要な内容の精選、本学学生の事例を挙げるなど授業法の工夫、ならびに、全学共通コンテンツ相互の連続性を持たせるなどの授業実施上の工夫を行いつつ、一方では学生の直近の必要性だけでなく、学生自身が「学ぶことの意味」を感じ考えられる授業として、「大学入門ゼミ」を実施していきたいと考える。

2021 年度大学入門ゼミ実施報告書【法学部・山本 慎一】

1. 実施の概要

本年度は、8クラス開講し、一学年約160名であるため、1クラス20名程度の規模で実施した。教員は分野の偏りがないよう配慮しながら毎年ランダムに割り当てられ、キャンパスアドバイザー（CA）制度と連動させることで、学生が3年次からの専門演習に入るまでの間、入門ゼミ担当者が面談等のケアをすることになる。

本年度開講されたテーマと担当者は、以下のとおりである。

・自由と法について考える（岸野 薫）
・法学入門（塚本 俊之）
・アカデミックスキルの実践（堤 英敬）
・法の運用現場を学ぶ（平野 美紀）
・民主主義とは何だろうか（藤井 篤）
・転換期における雇用社会の実態と将来の展望（細谷 越史）
・時事問題について考える（前原 信夫）
・戦後民主主義の原点（山本 陽一）

入門ゼミの内容は、各担当教員が上記のテーマに沿って個別に指導をする部分と、共通コンテンツとして「情報整理の方法」「日本語技法①・②」「レポートの書き方」「プレゼンテーションの方法」を実施する部分に大別される。共通コンテンツの内容は各担当教員のシラバスにも明記し、概ね第 1Q 期間の演習で共通コンテンツの内容は一通り取り扱っている。

さらに法学部特有の内容としては、法学部資料室と大学図書館の利用方法の解説の回を、各クラス必ず入れている。これは、法学・政治学の学習にあたって重要な位置を占める文献資料の検索・収集方法を初年次に身に付けさせる意図がある。また、大学入門ゼミの全受講生を対象に、犯罪被害者が抱える問題をテーマにした心理カウンセラーによる講演会を開催し、規範意識と倫理観の涵養を促すとともに、レポート提出を義務づけて添削指導の機会を設けている。

2. 学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

アンケートを通じた学生からの評価は、共通コンテンツの内容自体は、大学での学習にとって基礎的なスキルを修得する機会であり、概ね好意的な評価が多かったように思われる。ただし、担当教員によって教授方法や比重の置き方は様々であり、共通コンテンツの中身や担当教員のクラスによっては、レポート作成の教授方法、プレゼンテーションや討論の機会など、もう少し改善をして欲しいという意見も見られたが、全体的には高評価であった。

実際には、受講学生のレベルが様々であるため、共通コンテンツに対する理解度や必要性も多様であり、アンケート結果における評価にもばらつきがある。しかし、共通コンテンツ自体は、香川大学生としてのアカデミックスキルを習得させる貴重な機会として、共通の枠組みを維持して初年次学生に対して提供することの意義は認められよう。その際は、アンケート結果を担当教員および次年度に担当予定の教員の間で共有し、画一的な教授方法ではなく、少人数教育の特長を活かしてきめ細かな指導のあり方を検討し、実施していくことが必要と思われる。

3.　教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

学部において大学入門ゼミの導入当初は、一部の演習で共通コンテンツを実施せず、同コンテンツの内容を反映させた教員独自のコンテンツによって少人数教育を実施したクラスがあったものの、それから数年が経過し、全クラスで共通コンテンツの内容をシラバスに明記し、演習の中で実践することが定着した。これは共通コンテンツの意義や有用性が、教員間にも一定程度理解されるようになった証左であるといえよう。

他方で、教員アンケート結果を仔細に検討すると、共通コンテンツの中でも担当教員によって評価が分かれる点があるのも事実である。多くの教員に共通する点としては、『大学入門ゼミハンドブック』を基にただ口頭で方法を教えるだけでなく、実践を通して反復させながら身に付けさせるのが重要という点であり、共通コンテンツの内容を一通り教授した後も、各ゼミのテーマに合わせて担当教員が工夫を凝らしながら指導している実態がうかがえる。

学生アンケートと同様に教員アンケートについても、各担当教員にアンケート結果のフィードバックを行うとともに、次年度に担当予定となる教員に対しても、共通コンテンツの教授方法・内容についての心構えとして、アンケート結果の内容を共有することは有益であるため、担当者が決定次第、実施する予定である。

4.　改善すべき点等

教員アンケート結果から、『大学入門ゼミハンドブック』が古く、改訂した方が良いとの意見が複数の担当教員から寄せられている。PC 必携化の現状や DRI 教育の要素も採り入れた、新たな大学入門ゼミのハンドブック制作を検討していただきたい。

以　上

大学入門ゼミ実施報告書 経済学部

1. 実施の概要

令和3年度，経済学部からの開講数は 14 クラスである．担当教員数は 14 名，1 クラス教員 1 名である．クラス規模は 1 クラス当たり 18 名または 19 名であった．学生のクラス分けに際しては，同じ名字の学生が重ならないよう配慮している．共通コンテンツの教え方は，各教員がそれぞれのゼミで対応することになっている．担当者間でのやり取りはメールで情報共有による．なお，前年度 12 月に意見交換会を開催している．

2. 学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

4 分野のスキル教育の評価については 178 名からの回答があった．最も評価の高いものはレポートの書き方であった．今年度では，全回答者の約 57%がレポートの書き方を評価している．第 2 位はプレゼンテーションの方法で，全回答者の約 40%が評価している．以下，日本語技法が約 16%，情報整理の方法が約 7%と続く．レポートの書き方の高評価は，昨年度から変わらない傾向である．日本語技法には6つの技法があるが，その中ではメールの書き方を評価する学生が多い．

4 分野のスキル教育の改善点については 83 名からの回答があった．改善点はないと答えた学生も少なくないが，改善点への言及が最も多かったのはプレゼンテーションの方法であり，全回答者の約 18%が改善点を書いていた．僅差で第 2 位はレポートの書き方であり，全回答者の約 17%が改善点に言及していた．以下，日本語技法が約 7%，情報の整理の方法が約 4%と続く．なお，全回答者の 22%が，「オンラインよりも対面」，「説明より実践を増やす」，「話し合いやグループワークの時間を増やす」，といったスキル教育の進め方について言及している．

大学入門ゼミ全般については，好意的な意見が多いが，グループワークをしたかった，グループワークの時間を増やしてほしい，などと書いている学生が目立つ．男女比をできるだけ 1:1になるようにしてほしい，という意見もあった．

3. 教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

各教員が全学共通コンテンツを教える際にいろいろと工夫されていることがアンケート回答からわかる．学部全体としてスキルアップできるように，前年度に開催される担当者の意見交換会において気軽に工夫点について情報交換できるとよい．

ハンドブックに関しては 6 名から回答があった．「よく出来ている」「学生用のテキストとして発刊することを検討いただきたい」「電子メールの書き方などに今の実態にあっていない部分があるように思う」「そのまま使えるワークの数を増やしてほしい」といった評価，要望や改善の意見があった．教育効果については 6 名から回答があり，ほぼ全員がその効果や意義を認めている．

4. 改善すべき点等

・メールの書き方は，情報リテラシーの授業でカバーしたらよいのではないか．

・共通コンテンツの内容は一部オンライン化を行い，ゼミの時間はそれを踏まえたワークを中心に行ったらどうか．

（文責：星野良明）

大学入門ゼミ実施報告書 令和３年度(医学部・髙橋弘雄)

1. 実施の概要

学生に対する希望調査により医学科学生（109 名）を 4 ゼミ教員計 5 名で担当、看護学科と臨床心理学科の合同で両学科学生（83 名）を3ゼミ教員計 8 名で担当した（医学部受講全学生数 192 名、前期全 15 コマ）。コロナへの対応として、教室における密を避けるため、大講義室を使用する教員のゼミ（M（2）および（4））は、クラス規模が 35 人と多めに設定された。

		担当者	クラス規模
M（1）	医療のなかの核酸	栗原亮介	20 人
M（2）	感染症と感染制御	横平政直，坂東修二	35 人
M（3）	医療分野におけるＸ線と放射線	久冨信之	19 人
M（4）	生物学におけるアカデミックリテラシー	髙橋弘雄	35 人
M（5）	日本語の技法と情報倫理	藤井豊，石上悦子，辻京子	27 人
M（6）	双方向学習のスキルアップ	渡邉久美・松本啓子・市原多香子	28 人
M（7）	医療における心理学	川人潤子・野口修司	28 人

2. 学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

学生アンケートでは、メールやレポートの書き方に関して、特に有用であったという意見が多数寄せられた。プレゼンテーションの方法や、それを踏まえた発表課題に関しても、必要性を感じたというコメントが見られたが、その一方で、準備のためのグループワークの時間を講義の中でもっと取って欲しい、という要望も散見された。今年度は、対面授業の時間が限られていたという状況もあり、これは致し方ない点もあるように思われる。また、プレゼンテーションにおけるテーマ設定の方法や、グループワークにおける注意点、専門用語に対するより丁寧な解説などを求める意見も見られた。個人的には、プレゼンテーションの準備などのグループワークにおいて、教員の指示と、学生が試行錯誤する部分とのバランスを適切に取ることは、なかなか難しい課題だと感じた。

3. 教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

教員アンケートにおいて、共通コンテンツの重要性を指摘する意見が多く見られた。今年度は、コロナ渦により前半に対面授業が行えない期間が続いたが、レポート課題の添削による学生の理解度の向上や、後半部分でのグループワーク時間の拡充など、担当教員ごとに工夫して授業を行っていた。また、マスクをした対面授業よりも、マスクのない Zoom のグループワークの方が表情を見ながら対話できてよい場合もある、という意見も聞かれた。来年度以降のコロナなどの状況は不透明であるが、状況に合わせた柔軟な対応が求められると感じた。

4. 改善すべき点等

大学入門ゼミハンドブックについて、授業を進める上でとても役立ったという意見が多く見られた。また、もっとハンドブックの内容を増やして欲しい（15 回分の授業例の記載）、という要望も複数見られた。

大学入門ゼミ実施報告書（創造工学部）

1.　実施の概要

開講数：16 クラス（T1 － T16)、担当者数：16 人、クラス規模：20 人。

本学部は 7 コースに分かれており、共通コンテンツの教え方は各コースに一任しています。本コース 2 クラスでは、日本語技法：2 回、レポートの書き方：1 回、プレゼンテーションの方法：1 回、情報整理の方法：1 回と一通り行いましたが、コース・クラスによっては 1 項目を割愛する等しています。

前半は学部合同で行い、図書館利用講習、保健教育講習、安全教育講習を行いました。また、1 回を県警本部長の講演に当てました。学生が林町キャンパスと幸町キャンパスに分かれているため、林町の講義をポリコムで幸町に配信しました。後半ではコース・クラスに分かれて共通コンテンツ等を扱いました。また、1 回は基盤力テスト（全学共通学力テスト）の実施に当てました。日程表を本報告に添付しています。

2.　学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

対面授業と遠隔授業が混在したことについて、遠隔で出来ることは遠隔で行って欲しい、もっと対面で行って欲しいという両方の意見がありました。

共通コンテンツのメールの書き方やレポートの書き方はもっと早めに行って欲しかったという意見がありました。本学部では上記のように共通コンテンツは後半(5 月半ば以降)に行いましたが、一部を前半に持って来る等の検討が必要かも知れません。

Q1 － Q3 の回答数は、エクセルファイルの行数で、Q1：231、Q2：100、Q3：50 と Q1 が多く、全体として満足している学生が多いと考えられます。

3.　教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

本学部では、基本的に 1 年次 CA(キャンパスアドバイザー)が担当することになっており、教員によって授業のレベル・質に差が生じる。共通コンテンツはオンデマンドの教材を作成しておき、基本的にそれを活用することにしてはどうかという意見が複数ありました。

共通コンテンツについては、恐らく初めて担当する教員からと思われますが参考になったという意見が多くありました。また、やや分量が多く情報過多になってしまう面があるという意見も複数ありました。

4.　改善すべき点等

共通コンテンツの PPT ファイルでは、下記のワークの課題文が含まれていません。昨年度から引継いだファイルと大学入門ゼミハンドブックからの切り貼りで PPT ファイルに追加しました。課題文を PPT ファイルに埋め込んでおくか別途ファイルで用意しておいて欲しいと思います。

・レポートの書き方 2021.pptx 3.レポート作成のルール〔ワーク3〕間違い探し

・日本語技法 2-R03 提示用.pptx 箇条書きの技法〔ワーク〕箇条書きの練習、要約の技法〔ワーク〕要約の練習

2021 年 3 月

2021 年度創造工学部 大学入門ゼミ 日程

取りまとめ 情報通信 堀川

開講日時

・水曜日 2 校時：建築，防災，情シス，情通

・水曜日 3 校時：造形（幸町），機械，先端

時間 (場所)	コース	講義室	コース講義室	複数コース講義室 担当者
3 校時 (幸町)	造形・ ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	教 422 教 423	教 422	教 422 造形
2 校時 (林町)	建築・都市環境	3301(3304) 6901 6902	3301(3304)	3301 堀川
	防災・危機管理	6303	6303	
	情報ｼｽﾃﾑ・ｾｷｭﾘﾃｨ	6501 6503	6501	
	情報通信	6506 4301	4301	
3 校時 (林町)	機械システム	6202 6305 6306	6202	3301 堀川
	先端ﾏﾃﾘｱﾙ科学	3303 6501 6503	3303	

学部共通実施内容：

複数コース講義室で実施　林町 3301 教室 担当：堀川，　幸町教 422 教室 担当：造形

・保健管理センターによる保険教育講習（2 校時連続，造形は遠隔視聴(ポリコム)）

・高松南署による安全講習（2 校時連続，造形は遠隔視聴(ポリコム)）

・香川県警本部長による物理学の講義(本年度限り?) （2 校時連続，造形は遠隔視聴(ポリコム)）

~~・海外留学・国際インターンシップ説明会（第 15 回 オンライン）~~ → 中止

第 1 回 4/14(水) ガイダンス（授業の目的・計画）

コース毎に実施（開講形態/実施方法は各コースで決定）

第 2 回 4/21(水) 図書館利用講習 コース毎に実施

＊造形は幸町中央館（3 階 PC ルーム L2）で対面で実施

学内講師：香川大学図書館中央館サービス担当 河原さん

連絡先：香川大学情報図書グループリーダー 福山さん

＊造形以外はコースに分かれて創造工学部分館利用案内(約 19 分)を視聴し、課題等を実施

創造工学部分館利用案内
http://opac.lib.kagawa-u.ac.jp/www/libeng/manual/riyoannai/2019_riyoannai.html
第３回 4/28(水)（学部共通） 講義：理系の基礎知識を用いた交通捜査
外部講師：香川県警本部長 那須修氏
＊2 限，3 限とも 3301 教室で対面で実施(造形は遠隔視聴)

以下、第４回ー第８回は全学の措置により遠隔授業に切り替え

第４回 5/7(金)(振替) (学部共通) 保健教育講習：キャンパスライフ入門ー大学生のメンタルヘルスー
学内講師：保健管理センター 大塚美菜子先生
2 限：Kadams で講義・録画、3 限：録画視聴 (Kadams に参加出来ない者に対して、録画を Moodle にも載せる)

会議：第４回 5/7(金)(振替) (学部共通) 保健教育講習

第５回 5/12(水)（学部共通） 安全教育講習：生活安全・交通安全・防犯
外部講師：香川県警察高松南警察署・香川県警察本部生活安全部生活環境課
連絡先：香川県警察高松南警察署 警備課長 水口警部，浜崎警部補
＊2 限，3 限とも 3301 教室での対面講義と Kadams での遠隔講義の併用 (録画不可)
Kadams 会議：第５回 5/12(水) (学部共通) 安全教育講習

以下，コースに分かれて実施（開講形態/実施方法は各コースで決定）

以下３回程度の資料は全学（大教センター佐藤先生）よりガルーン & Moodle に提供
ファイル管理-> 04 教育・学生支援室ライブラリ ＞ 02 修学支援グループ ＞ FD スキルアップ講座資料

大学入門ゼミ全学共通コンテンツ【授業担当教員向け】

第６回 5/19(水) 学部共通課題（日本語技法）
第７回 5/26(水) 学部共通課題（レポート）
第８回 6/2(水) 学部共通課題（プレゼン）

以下、対面授業に切り替え

第９回 6/9(水) 基盤力テスト（全学共通学力テスト）
担当：石井知彦先生

以下６回の資料は各コースで引き継ぎ

第 10 回 6/16（水） コース毎課題
第 11 回 6/23（水） コース毎課題
第 12 回 6/30（水） コース毎課題
第 13 回 7/7（水） コース毎課題
第 14 回 7/14（水） コース毎課題
第 15 回 7/28（水） コース毎課題

大学入門ゼミ実施報告書（農学部）

1．　実施の概要

・開講数は　　10クラス

・担当教員数　　10人+コーディネーター（松本）

・クラス規模　　17人以下

・共通コンテンツの教え方

農学部は大学入門ゼミを演習に位置付けている。授業を実施する前に、コーディネーターが全員分の Moodle を開設しシラバスチェックを行った。さらに、遠隔講義が行われる際の対応策として、共通コンテンツの動画を一部用意しいつでも対応できるように備えた。初めて対応する教員への対応は、コーディネーターが細かく指示を出すことで円滑に実施できた。特色ある取り組みとして、各教員が自身の研究テーマに近い内容をコンテンツとして用意し、独自のスタイルで、ハンドブックに則って日本語技法やプレゼンテーションの技法を予め各教員が確認し合い、トピックス的に共通コンテンツに織り交ぜながら実施できた事で農学部らしい特色を産み出せた。農学部の学生支援委員長ならびにカリキュラム委員長ともに、昨年度6クラス→今年度10クラスへの少人数生への改革による効果は高評価であった。

・担当教員間のやり取り

担当者間のやり取りは、Moodle 上に資料を共有することから始まり、Zoom 会議、教授会前後の個別 FD を実施し、手厚くサポートしながら対応した。対面講義から遠隔講義への急な変更があった際であっても、円滑に移行できた背景には、遠隔環境下でのグループワークへの対応を想定していたことにより円滑な対応が可能だった。Padlet などのアプリとの併用は、遠隔環境以下での新たなコミュニケーション力向上に効果があった。その他、小人数という事もあり、全体的に高い教育効果があったと教員間でもまめに打ち合わせができた。コーディネーターが積極的に働きかける事で、多くの先生方からの声を波及させることに繋がった。

2．　学生アンケート（共通コンテンツについてのアンケート）結果についての所見

昨年度に比べ、学生間の連携関係が良好だったと感じた。特に、教員と学生の関係性が良くなったことから、学生の要望や理解力を正しく引き出せる事に繋がり、学生アンケートを読んでも、正しく理解しようと努力した結果が記載されている事が良くわかる。昨年度は、担当教員が3～4年連続で実施してきたこともあり慣れていた一方で、遠隔環境下でのグループワークを強要するような形で実施していたように思う。しかしながら、今年度は、少人数生に変更し、アドバイザー教員と担当教員を一致させることで学生との距離を近づけ、10名体制で10クラス分担したことで、学生も安心して大学入門ゼミで学んだ内容について分析できていた。農学部が実施する大学入門ゼミは演習に分類される為、レポートの書き方、プレゼンテーション能力の向上、ディスカッション力の向上、ノートの取り方、メールの書き方等、学修効果の向上に直結した内容への好奇心を高める事に繋がった。このことは、来年度以降も共有することとなった。

3．　教員アンケート結果（または反省会での意見交換）についての所見

昨年度までは、6名が26名ずつ学生へ対応行った為、学生一人一人への対応が不十分と判断し改革を行う必要性が有ると指摘があった。特に注視した点は、大学入門ゼミの担当教員とアドバイザー委員が異なる教員によ

り対応したことにより、遠隔講義へ十分な配慮ができていなかったのではないかとの指摘である。今年度は大幅に改善し、アドバイザー委員と大学入門ゼミ担当者を同一教員とし、10名の教員が各々17名ずつ学生を担当することとなり、クラス担任が少人数学生へ対応したことで、不安を抱える学生へ細やかな対応できた点が挙げられる。改善効果は、特に、学生との距離を近く感じたとコメントをしてくれる教員が多かった。また、大半の教員が初めて大学入門ゼミを担当したことから、教員自信が試行錯誤して農学部らしい大学入門ゼミについて再考できた点が良かった。次年度も新たな教員が10名ずつ大学入門ゼミを担当していただく際には、改善効果があった点を強く伝えて行きたい。

4.　改善すべき点等

　農学部で開講する大学入門ゼミでは、昨年以上に遠隔講義下でのグループワークを運用できる先生が増えた。農学部内 FD では、Moodle 上に遠隔講義の Tips 集を掲載しており、多くの先生方が様々なコミュニケーションツールをうまく運用できる環境に有った点が良かった。数名の先生方からアップデートの要望を受けていますので、遠隔講義環境下でのグループワークの事例を増やすように心がけたい。